

# 「Tokkyo.Ai」が「仮想知財部」AI機能を提供

Felo AI

知財部を持たない企業向けに「仮想知財部」AI機能を提供開始【リーガルテック社】 — 発明の増加に対応する知財判断基盤を中堅・中小企業にも提供 — リーガルテック株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：平井 智之、以下リーガルテック社）は、知財AIプラットフォーム「Tokkyo.Ai」において、知財部を持たない企業でも戦略的な特許判断を可能にするAIエージェント機能の提供を開始した。本機能は、発明候補の抽出から出願判断、競合分析、将来価値評価までを一体化し、いわば“仮想知財部”として機能するものである。 <https://www.legaltech.co.jp/notice/260316/>

## Overview

リーガルテック株式会社が提供するAI知財プラットフォーム「Tokkyo.Ai」は、最新のAIエージェント技術を導入し、単なる特許調査ツールから企業の経営判断を支援する戦略的基盤へと進化を遂げている。特に2026年3月16日に発表された新機能「仮想知財部」は、専任の知財部門を持たない中堅・中小企業を対象に、発明候補の抽出から出願判断、競合分析、将来価値評価までを一気通貫で支援する画期的なソリューションである [17 22](#)。これは、AI Transformation (AX) 時代における発明創出の加速と、それに伴う企業の判断負荷増大という経営課題に対応するものであり、同社が掲げる「知財の民主化」を具現化する重要な一手と言える [4 11 17](#)。大手製造業との実証実験や総合商社での導入事例も進んでおり、日本の知財を「負債」から「武器」へと転換させるためのインフラ構築が本格化している [5 12](#)。

## Detailed Report

### リーガルテック株式会社の戦略と市場背景

**企業概要とビジョン** リーガルテック株式会社（旧：Tokkyo.Ai株式会社）は、「知財の民主化」を企業理念に掲げ、AI技術を駆使して知財分野の高度化を支援するリーディングカンパニーである [4 11](#)。同社は、日本の企業が保有する優れた技術を知的財産として適切に保護・活用し、持続的な競争優位へと転換させるための環境整備を目指している [5 37](#)。従来、日本では特許を「コスト」や「守りのためのもの」と捉える傾向が強く、戦略的な収益化（マネタイズ）が欧米や中国に比べて遅れているという課題があった [11](#)。リーガルテック社は、この状況を打破し、知財創出から収益化までを一気通貫で支援するプラットフォームを提供することで、日本の産業競争力強化に貢献することをミッションとしている [3](#)。



市場環境の変化：AX時代の到来 AI Transformation (AX) の進展は、知財戦略のあり方を根本から変えつつある。製品やサービスの開発サイクルが高速化し、従来は発明と見なされなかった業務プロセス自体も特許化の対象となるなど、企業が生み出す発明候補の数は爆発的に増加している [17 22](#)。この変化は、特に知財部門のリソースが限られる中堅・中小企業にとって、出願判断の遅延や外部専門家への過度な依存といった新たな経営課題を生み出している [1 17 22](#)。発明創出が日常化する時代において、迅速かつ戦略的な知財判断を下すための体制構築が、企業の成長を左右する重要な要素となっている。

## AI 知財プラットフォーム「Tokkyo.Ai」の進化

コア機能 「Tokkyo.Ai」は、知財業務のあらゆるフェーズを効率化するための多彩な AI 機能を統合したプラットフォームである [1](#)。

- **ChatTokkyo:** 自然言語での対話を通じて、必要な特許情報を迅速に取得できる [1](#)。
- **生成 AI:** 技術分野などの要点を入力するだけで、特許明細書のドラフトを自動で作成し、出願準備をスムーズにする [1](#)。
- **AI 検索:** 文章を入力するだけで、AI が文脈を理解し、関連性の高い類似特許を瞬時に検索・表示する [1](#)。
- **AI イメージ検索:** 画像をアップロードするだけで、類似する商標を検索し、調査の効率を飛躍的に向上させる [1](#)。

先進技術の導入：ディープリサーチ 2025 年 12 月には、AI の思考・調査プロセスを可視化する「ディープエージェント方式」を実装した「Deep Research」機能を発表した [1 21](#)。これは、AI がどのような検索式を立て、どのように分析を進めたかの全プロセスをユーザーが検証できる機能であり、AI の判断根拠がブラックボックス化することを防ぎ、調査結果の信頼性を高めるものである [1](#)。

## 最新機能「仮想知財部」の詳解

開発背景と目的 2026年3月16日に提供が開始された「仮想知財部」機能は、前述のAX時代における発明増加と判断負荷の増大という課題に正面から向き合うために開発された [17 22](#)。専任の知財部を持たない、あるいはリソースが不足している中堅・中小企業でも、大企業と同等の戦略的な知財判断を行える基盤を提供することを目的としている [17 22](#)。



リーガルテック®  
知財AI™カンパニー

### 知財部を持たない企業向けに「仮想知財部」 AI機能を提供開始【リーガルテック社】

MyTokkyo.Ai  
SME

特許IP202150606の市場影響管理スコア  
総合スコア71.6点(100点満点)  
スコア算出ロジックの詳細説明  
1. 評価軸と配点  
本特許の市場価値を定量的に評価するため、以下7つの評価軸を設定し、それぞれに重みを付与している。  
2. 各評価軸の評価説明  
① 市場価値の算出  
② 市場価値の算出  
③ 市場価値の算出  
④ 市場価値の算出  
⑤ 市場価値の算出  
⑥ 市場価値の算出  
⑦ 市場価値の算出

— 発明の増加に対応する知財判断基盤を  
中堅・中小企業にも提供 —

機能概要と提供価値 「仮想知財部」は、以下のプロセスをAIエージェントが自律的に実行し、一体的に支援する [17 22](#)。

1. **発明候補の自動検出:** 社内の技術文書や報告書から、特許化の可能性がある技術やアイデアを自動で抽出する [22](#)。
2. **出願判断支援:** 抽出された発明候補について、先行技術調査や市場性を分析し、出願すべきかどうかの判断材料を提供する。
3. **競合分析:** 関連分野における競合他社の特許出願動向を分析し、自社の技術的優位性や事業リスクを可視化する。
4. **将来価値評価:** 特許の技術的価値や市場価値を評価し、ライセンス供与や共同開発といった収益化戦略の立案を支援する。

この機能により、企業は専門知識を持つ人材が不足していても、データに基づいた客観的かつ戦略的な知財判断を下すことが可能になる。これにより、価値ある技術の権利化漏れを防ぎ、経営資源としての知財を最大限に活用する道が開かれる。

## エコシステムの拡大と連携戦略

リーガルテック社は、「Tokkyo.Ai」を中核としながらも、知財のライフサイクル全体をカバーするソリューション群を構築している [11](#)。

### 独自の基盤技術「Xシステム」をベースにした総合的な知財プラットフォームを構築

知財プラットフォーム

## Tokkyo.Ai

- アイデア創発から権利化、管理まで行う知財の総合プラットフォーム

知財マネタイズ支援

 リーガルテックVDR

- 共同研究開発をAIで支援
- クローズド情報の安全な共有
- M&AのデューデリジェンスにAI活用

知財マネタイズ支援

 Keiyaku.Ai  
企業間契約のCLM

- 知財ライセンスに特化した、ブロックチェーン基盤の電子契約CLMツール

知財マネタイズ支援

## LegalSearch

- 関連法令のAIリサーチ
- 判例データの検索エンジン
- 知財訴訟の判例・法令検索に利用

### 製品ポートフォリオ

- **AI IPGenius:** 海外の技術レポートや社内に散在する調査資料など、非構造化データを横断的に解析し、新たな発明テーマの抽出や技術動向の把握を支援するナレッジベース [12 28](#)。
- **リーガルテック VDR:** M&A や技術提携の際に、機密情報を安全に共有するためのバーチャルデータルーム [11 12](#)。
- **その他:** 電子契約や法令・判例検索エンジンなども含め、知財の創出から契約、権利活用、訴訟支援までを統合的にサポートする [11 36](#)。

**実証実験と導入事例** 同社は、ソリューションの実用性を高めるため、産業界との連携を積極的に進めている。

- **大手製造業との実証実験:** 2026年4月より、大手製造業と共同で「MyTokkyo.Ai」および「IPGenius」を活用した実証実験を開始 [5 35](#)。特許ビッグデータのAI解析が経営判断に与える効果を検証し、知財と経営を接続する新たな手法の確立を目指す [5](#)。
- **総合商社での活用:** 資源・エネルギー分野の総合商社において、「AI IPGenius」を導入 [12 28](#)。海外の膨大な技術レポートをAIで解析し、発明テーマの抽出や情報整理にかかる工数を最大約70%削減する成果を上げている [12](#)。

## 結論と今後の展望

「Tokkyo.Ai」とその最新機能「仮想知財部」は、AI 技術を知財実務に深く統合し、企業の規模や専門知識の有無にかかわらず、誰もが戦略的に知財を活用できる環境を構築しようとするリーガルテック社のビジョンを体現している。これは、単なる業務効率化ツールを超え、企業の競争力の源泉である知的財産を経営の中核に据えるための判断基盤を提供するものである。

今後、大手企業との実証実験を通じて得られる知見や、中堅・中小企業への導入拡大により、プラットフォームはさらに洗練されていくと予想される。AI エージェントの自律性の向上、異なるソリューション間のデータ連携の深化が進むことで、将来的には発明の創出からライセンス契約、M&A 戦略までをシームレスに支援する、より高度な「知財マネタイズプラットフォーム」へと進化していく可能性が高い。

1. [Tokkyo.Ai](#)
2. [リーガルテック株式会社のプレスリリース](#)
3. [リーガルテック株式会社 – 知財の未来を切り拓く. AI リーガル ...](#)
4. [会社概要 – リーガルテック株式会社](#)
5. [リーガルテック社、大手製造業と特許 AI 活用実証実験を開始](#)
6. [AI 特許](#)
7. [「リーガルテック」に関するプレスリリース一覧](#)
8. [リーガルテック株式会社 代表取締役交代のお知らせ](#)
9. [企業情報 – リーガルテック株式会社](#)
10. [リーガルテック関連ニュースまとめ \(2021 年 3 月\)](#)
11. [リーガルテック社、累計 3.8 億円調達、生成 AI で知財の ...](#)
12. [資源・エネルギー領域を担う総合商社における先行的活用事例 ...](#)
13. [リーガルテック最新動向 2022 – いま求められるワンストップ ...](#)
14. [LegalTech 協会](#)
15. [リーガルテックのニュース一覧 | ニュースイッチ by 日刊工業新聞社](#)
16. [リーガルテック株式会社](#)
17. [知財部を持たない企業向けに「仮想知財部」AI 機能を提供開始 ...](#)
18. [【リーガルテック】関連が株式テーマの銘柄一覧](#)
19. [基本構造 | 世界水準の法務 AI LegalOn \(リーガルオン\) \(日本\)](#)
20. [リーガルテック、生成 AI 進化が問う課金の価値 使い勝手や精度磨く](#)
21. [リーガルテック株式会社【AI で知財業務を効率化】](#)
22. [知財部を持たない企業向けに「仮想知財部」AI 機能を提供開始 ...](#)

23. [【2026年最新版】リーガルテックカオスマップを公開！](#)
24. [株式会社リセ: AIなどを提供するリーガルテック企業](#)
25. [ニュース検索結果（リーガルテック） - 企業法務ナビ](#)
26. [誰でも使える AI 特許支援『MyTokkyo.Ai』で非専門家も ...](#)
27. [宇宙ビジネスと法制度・小型 SAR 衛星・民間ロケットから探る ...](#)
28. [資源・エネルギー領域を担う総合商社における先行的活用事例](#)
29. [リーガルテック社、“中堅企業向け知財 AI”の提供を開始](#)
30. [TokkyoAi - 検索システム（日本）](#)
31. [プレスリリース](#)
32. [AI リーガルテック協会](#)
33. [リーガルテックプレスリリース](#)
34. [リーガルテクノロジー: 株式会社 Legal Technology](#)
35. [大手製造業と特許 AI 活用実証実験を開始（PR TIMES） | 毎日新聞](#)
36. [法律事務所の案件管理・証拠・契約・ナレッジ共有に革新 ...](#)
37. [リーガルテック株式会社、知財を国際競争力へ接続する判断 ...](#)